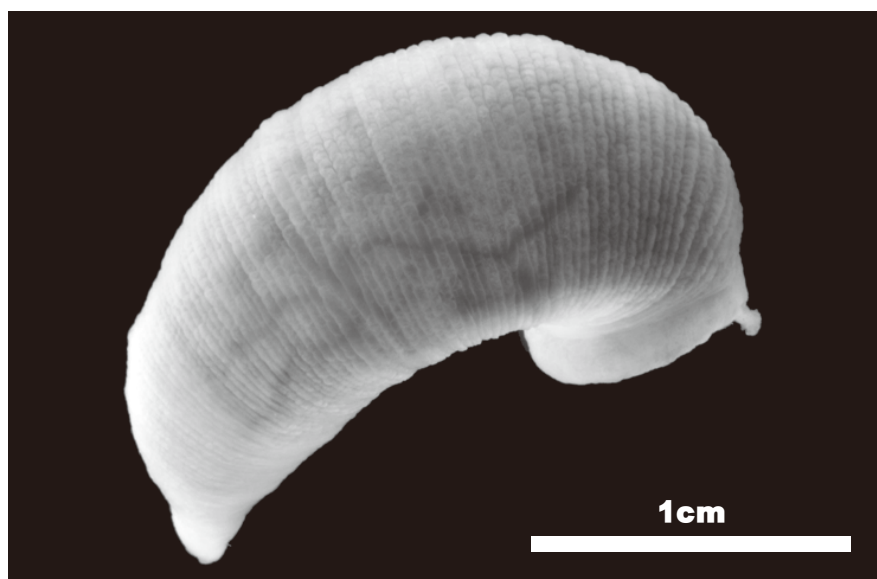


驚きの吸血生物—ヒル—

佐々木彰央



シナノビル *Myxobdella sinanensis*



指に吸着したシナノビルの幼体

-196℃の極限状態に対して、強い耐性力をもつヒルがいるというニュースは記憶に新しいと思います。このヒルはヌマエラビル *Ozobranchus jantseanus* という種類で、私たちが想像するヤマビル *Haemadipsa zeylanica japonica* やチスイビル *Hirudo nipponia* とは異なり、ストロー状の吻を突き刺して吸血をする吻蛭目に属します。吻蛭目は多くの場合、水生のカメ類や魚類などに寄生しますが、*Parabdella quadrioculata* では人への吸血例が報告されています。

一方、ヤマビルやチスイビルなどは吻無蛭目に属し、牙で皮膚を切り裂いて吸血をします。その他にもミミズなどを丸呑みにするヨツワクガビル *Orobdella whitmani* などもあります。捕食や吸血方法は種類によって様々ですが、特に興味深いのはネンマクビル科のヒルです。このグループは人を含めた脊椎動物の粘膜組織に寄生することが知られています。有名な種類としては *Tyrannobdella rex* やハナビル *Dinobdella felox* です。

T. rex は2007年ペルーに住む少女の鼻から取り出された個体に基づき記載されました。名前の由来は、ティラノサウルス・レックス（恐竜）のように大きくて鋭い歯を有しているという特徴からです（ヒル類の有する歯としては大き

いという意味です）。この歯を使って体内へと切り裂きながら侵入していきます。

ハナビルは、その英名を、和名と同じ意味の nasal leech（鼻のヒル）といい、*T. rex* のように鋭い歯はありません。アジアに広く分布しており、日本では九州に生息していることが知られています。生息地は源流域の水中で、水を飲みに来た哺乳類などに寄生します。一定期間の寄生生活を終えると自由生活に移行するため宿主から出て行き、再び水中に身を潜めます。

静岡県にもネンマクビル科のシナノビル *Myxobdella sinanensis* が生息しています。生息地は源流域で、遭遇する機会はまれです。シナノビルも他のネンマクビル科と同様に口腔内などの粘膜組織に寄生すると考えられています。ハナビルとはシナノビル特有の縞模様の有無で判別できます。

私がシナノビルと遭遇した時は、本種の幼体が数10個体手足に吸着し、顔の方へと這い上がるようになってきました。しかし、乾燥には弱いらしく、すぐに水中へと引き返してしまいました。体長は約10mmと小さく、意識しないと気が付きません。みなさんも源流域の水を飲む際は十分にご注意下さい。